ユニコーン召喚 / 喚起のための

蘇生するユニコーンと物語る

仮定 a,		ユニコーンは物語世界に存在する
	b,	ユニコーンが存在するのは物語世界である
	c,	ユニコーンが存在する場所は物語世界である

ワークショップを始める前に伝えること

今日この場所に来たあなたには、ひとつ物語を書いて頂きたいのです。
机の上に原稿用紙が置いてあります。その原稿用紙に物語を書く、ここで行うことはそれだけです。
会場を見回して、いくつかの机の中心の、ユニコーンの前に座っている人が、これを書いている私です。
ここはなんだかおかしな空間。
ひどく痩せたユニコーンが横たわっています。
上の３つの仮定によれば、ここは物語世界です。ユニコーンによってこの場所は、現実世界から物語世界へとささやかな場面転換を起こします。
朝起きて、今日は美術館に行こうと決め、ここまでやってきたあなたの日常と、その日常から少しずれた物語世界が繋がってしまいました。

少しずれたと言いましたが、この物語世界が少しずれているのは、ここで行われる行為がいわゆる生活に必要な、生きるために必要な、衣食住のどれにもあてはまらない、特に大きなお金も生まない、社会とは少し違うことが重要になる世界だからです。

今日ここで作る物語は、自分が暮らしている世界から少しずれた、自分だけの深い洞窟のような世界です。
その暗がりに目を向けて、自分だけが知ることができる世界を見つけて、それを原稿用紙に書いてください。
物語の形式は自由です。ジャンルも自由。しかしひとつ注意したいのは、「感想文」にならないこと。今日この場では、思ったことをそのまま伝える必要はありません。なにか感想を持ったとしたら、それをそのまま書くのではなく、あなたの作品として、自分だけの物語世界に繋げてください。あなたは今鑑賞者ではなく作者です。

このワークショップでは、特に会話は必要としません。他者とのコミュニケーションは一度脇に置いてください。(それでも嫌でもついてまわりますが)。
必要なのは自己埋没です。Focus on it!
他のことは一旦忘れて、自分本意に集中してください。
それで困ることがあれば、(荷物が邪魔とか、周りが気になるとか) スタッフに伝えてみてください。
私は話しかけられても特に会話しません。顔も見ない、どんな人がいるか、それも知ろうとしません。あなたが書いた物語上だけであなたを知るためです。

ここで書く物語は、今後何かになるためのものではないし、特に知識も技術も上手く書く必要もない、本当にただの原稿用紙上の文章です。特別なテクニックや世界観も必要ありません。　↗

ただ、面と向かって話し合ったり、目を合わせたり、そういったことではないコミュニケーションを、お互いの空想のなかで行いたい。作られたものからお互いを知り合いたい。普段のあなたから少しずれた、あなたが創作した物語世界によって、お互いをより知ることができるかもしれない。他者を遮る自己埋没によって、より深く自分や他者を知ることができるかもしれない。

物語世界にはユニコーンがいます。私は物としてユニコーンを実在させ蘇生していますが、あなたが書いた物語世界や他の人が書いた物語世界は繋がっているので、例え直接的な描写がなくとも、そのずれた世界にユニコーンが姿を表すこともあるでしょう。
そしてあなたはユニコーン召喚に成功します。

なんだか楽しくなってきました。今日この時代、この場所に来た人たちで、どんな物語が原稿用紙の上に広がるでしょうか？
「物語を書く」と言われ、「げっ」と思ったあなたも、とりあえず、やってみてください。私は物語を書くプロではないし、ここに優劣はありません。起承転結も必要不可欠ではありません。短い詩のようなものでもいいはずです。

では、まず一行目を書き始めましょう。
最初の言葉には躊躇するべきです。
何かを生み出そうとするとき、あなたは何かを生かす感じがしますか？それとも何かを殺す感じがしますか？

それでもまず一行目を書き始めましょう。
そこはどこですか、いつですか？
だれがいて、だれがいない？何をしていて、何をしていない、黙っている、話している、だれに向かって？
あなたはここにいて、でも本当はどこにいるのでしょうか。

2018 年 7 月 18 日
平野 真美